

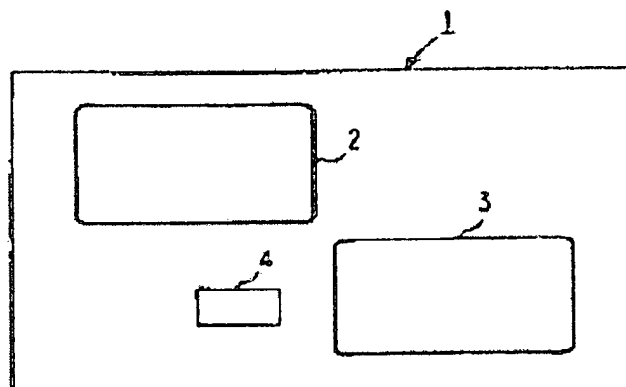
MAIL/RETURN ENVELOPE

Patent number: JP6072446
Publication date: 1994-03-15
Inventor: WATANABE TSUNEO
Applicant: H S:KK
Classification:
- international: B65D27/06; B65D27/04
- european:
Application number: JP19920225529 19920825
Priority number(s):

Abstract of JP6072446

PURPOSE: To provide a mail/return envelope holder for a mail/return envelope, wherein an envelope can be used twice or more in returning and mailing the envelope, the work that the address and the name of an addressee and that of the sender are printed or written on the envelope can be omitted, and the contents in the envelope can be seen through the envelope.

CONSTITUTION: In a mail/return envelope is constituted by forming a durable sheet into a postal envelope shape, and a first mailing/returning address reading window 2 and a second mailing/returning address reading window 3 are arranged in the fixed position on the front surface of the envelope 1, moreover a sealing means capable of being reused is arranged on the back surface. An address of the addressee (destination) is written in the first position of the first main surface of an mail/return envelope holder, and the address of the sender is written in the second position. Also the address of the addressee (destination) is written in the first position and the address of the sender is written in the second position of the second main surface.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平6-72446

(43) 公開日 平成6年(1994)3月15日

(51) Int.Cl. ⁵	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
B 6 5 D 27/06	J	9146-3E		
27/04	B	9146-3E		

審査請求 未請求 請求項の数4(全7頁)

(21) 出願番号 特願平4-225529

(22) 出願日 平成4年(1992)8月25日

(71) 出願人 592007818

株式会社エイチ・エス

埼玉県大宮市中野林330番地

(72) 発明者 渡辺 恒夫

埼玉県大宮市中野林330番地

(74) 代理人 弁理士 秋田 収喜

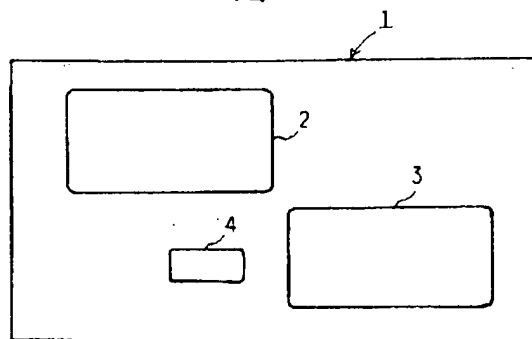
(54) 【発明の名称】 往復信兼用封筒

(57) 【要約】

【目的】 封書郵便の返信、発信において、2回以上使用が可能でありかつ、受取人（郵送先）の住所、氏名及び発信人の住所、氏名を封筒に印刷又は記入記載する手間を省略する。封筒の内容物を表示する。また、往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーを提供する。

【構成】 耐久性のあるシートを郵便封筒状に構成した往復信兼用封筒であって、該封筒の表面に第1の送受信宛名読取窓と第2の送受信宛名読取窓とが所定の位置に設けられ、裏面には再使用可能な封止手段が設けられている。また、往復信兼用封筒用ホルダーの第1主面の第1の位置に発信用の受信人（郵送先）の送信先宛名が記載され、第2の位置に発信人（発送人）の発信人宛名が記載され、かつ、第2の主面の第1の位置に、返信用の受信人（郵送先）の送信先宛名が記載され、第2の位置に発信人（発送人）の発信人宛名が記載されている。

図 1



1

【特許請求の範囲】

【請求項1】 耐久性のあるシートを郵便封筒状に構成した往復信兼用封筒であって、該封筒の表面に第1の送受信宛名読取窓と第2の送受信宛名読取窓とが所定の位置に設けられ、裏面には再使用可能な封止手段が設けられていることを特徴とする往復信兼用封筒。

【請求項2】 請求項1に記載の往復信兼用封筒において、さらに、被封止物の種類を表示する被封止物種類表示窓が設けられていることを特徴とする往復信兼用封筒。

【請求項3】 前記請求項1に記載の往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーであって、該往復信兼用封筒用ホルダーの第1主面の第1の位置に発信用の受取人（郵送先）の送信先宛名が記載され、第1主面の第2の位置に発信人（発信送人）の発信人宛名が記載され、かつ、第2の主面の第1の位置に、返信用の受取人（元発信人）の送信先宛名が記載され、第2の主面の第2の位置に発信人（返信人）の発信人宛名が記載されていることを特徴とする往復信兼用封筒用ホルダー。

【請求項4】 請求項3に記載の往復信兼用封筒用ホルダーにおいて、さらに、被封止物種類表示が記載されていることを特徴とする往復信兼用封筒用ホルダー。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、往復信兼用封筒及びそれに用いられるホルダーに関するものである。特に、返信を要する封書であって、返信人が郵送先（受取人）の宛名等を記載する手間を省略することが可能である往復信兼用封筒及びそれに用いられるホルダーに関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来の封書郵便は、封筒に各々の宛先の住所、氏名を書き封止するか、あるいは、封入の内容物に印字して、その部分に対応する位置に読取り窓が設けられている封筒に収納して封止し、発信人の住所、氏名を封筒に印刷又は記入記載している。そして、封筒を一回の使用のみで破棄してゴミとして捨て去っている。また、返信用の封筒を同封するか、受信人の方で新たな封筒に再度宛先の住所、氏名等を封筒に印刷又は記入記載し、かつ、発信人の住所、氏名を封筒に印刷又は記入記載している。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、前記従来の郵便封書では、発信郵送一回毎に一枚ずつの封筒を使用し、相手からの返信を求める場合には、返信を求める側の宛先名を印刷又は記入記載しなければならないという問題があった。

【0004】また、封筒を一回の使用のみで破棄してゴミとして捨て去ることは、地球環境問題点から見て資源の無駄使いであるという問題があった。

2

【0005】本発明は、前記問題点を解決するためになされたものであり、本発明の目的は、封書郵便の返信の発信において、2回以上の使用が可能であり、かつ、元発信人（郵送宛先人）及び返信人の住所、氏名及び発信人の住所、氏名を封筒に印刷又は記入記載する手間を省略することが可能な往復信兼用封筒を提供することにある。

【0006】本発明の他の目的は、封筒の内容物を表示することが可能な往復信兼用封筒を提供することにある。

【0007】本発明の他の目的は、往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーを提供することにある。

【0008】本発明の前記ならびにその他の目的及び新規な特徴は、本明細書の記述及び添付図面によって明らかになるであろう。

【0009】

【課題を解決するための手段】前記目的を達成するために、本発明の（1）の手段は、耐久性のあるシートを郵便封筒状に構成した往復信兼用封筒であって、該封筒の表面に第1の送受信宛名読取窓と第2の送受信宛名読取窓とが所定の位置に設けられ、裏面には再使用可能な封止手段が設けられていることを特徴とする。

【0010】本発明の（2）の手段は、前記（1）の手段の往復信兼用封筒において、さらに、被封止物の種類を表示する被封止物種類表示窓が設けられていることを特徴とする。

【0011】本発明の（3）の手段は、前記（1）の手段の往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーであって、該往復信兼用封筒用ホルダーの第1主面の第1の位置に発信用の受取人（郵送先）の送信先宛名が記載され、第1主面の第2の位置に発信人（発信送人）の発信人宛名が記載され、かつ、第2の主面の第1の位置に、返信用の受取人（元発信人）の送信先宛名が記載され、第2の主面の第2の位置に発信人（返信人）の発信人宛名が記載されていることを特徴とする。

【0012】本発明の（4）の手段は、前記（2）の手段の往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーであって、前記（3）の手段の往復信兼用封筒用ホルダーに、さらに、被封止物種類表示が記載されていることを特徴とする。

【0013】

【作用】前述の手段の往復信兼用封筒及び往復信兼用封筒用ホルダーによれば、発信人は、このホルダーに内容物を収納し、これを前記往復信兼用封筒に第1主面の宛先名が所定の窓に合致するように挿入して封止し、郵送する。

【0014】返信人（元受取人）は、ホルダーの内に返信内容物を収納し、これを前記往復信兼用封筒に第2主面の宛先が所定の窓に合致するように挿入して封止し、郵送する。

【0015】これにより、往復信兼用封筒及び往復信兼用封筒用ホルダーは2回以上使用ができる。また、発信用、返信用の受取人（返信人）の住所、氏名及び発信人の住所、氏名を封筒に印刷又は記入記載する手間を省略することができる。また、封筒の内容物を容易に表示することができる。

【0016】

【実施例】以下、本発明の実施例を図面を用いて詳細に説明する。なお、実施例を説明するための全図において、同一機能を有するものは同一符号を付け、その繰り返しの説明は省略する。

【0017】図1は、本発明の一実施例の往復信兼用封筒の構成を示す表平面図、図2は、図1の裏平面図、図3は、図1の展開図である。

【0018】本実施例の往復信兼用封筒は、図1乃至図3に示すように、合成樹脂等の耐久性のあるシートを郵便封筒状に構成した往復信兼用封筒1の表面に、第1の送受信宛名読取窓2と、第2の送受信宛名読取窓3と、被封印物の種類を表示する窓4とが所定の位置に設けられ、封筒1の一端端部に封止部片5が一体に設けられている。また、裏面には再使用可能に封止するための封止用切込み穴6、7が前記封止部片5の先端部と係合する位置に設けられている。これを展開すると、図3に示すように、郵便法に従った形態の封筒の展開形状になっている。図3において、一点鎖線は折り曲げ線であり、この一点鎖線に沿って折り曲げられる。また、斜線が施こされている部分は、接着剤、熱圧着等により接着される領域である。

【0019】前記第1の送受信宛名読取窓2及び第2の送受信宛名読取窓3は、例えば、90×45mmの面積の窓になっている。また、前記被封印物の種類を表示する窓4は、例えば、20×40mmの面積の窓になっている。これらの窓の部分は透明なシートで覆ってもよい。

【0020】前記封止用切込み穴6と切込み穴7の間隔は、例えば15mmになっている。そして、図2に示すように、前記封止部片5の先端部を封止用切込み穴6を通して切込み穴7に突出させ、着脱自在のシール8により封止するようになっている。

【0021】前記封止用切込み穴は、実施例では2個の穴6、7を設けたが、使用ヒン度に依じて1個にしてもよい。

【0022】この往復信兼用封筒1は、合成樹脂等の耐久性のあるシートを、図3に示す形状に打ち抜き、所定の部分を折り曲げ、接着して製造する。

【0023】図4は、本発明の実施例の前記往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーの主面の構成を示す展開図、図5は、図4の往復信兼用封筒用ホルダーを使用状態に折り曲げた状態を示す図である。図4及び図5において、一点鎖線は折り曲げ線である。

【0024】図4及び図5に示すように、本実施例の往復信兼用封筒用ホルダー10は、合成樹脂等のシートからなり、その第1主面11に、前記第1の送受信宛名読取窓2、第2の送受信宛名読取窓3、及び被封印物種類表示窓4に対応する位置に、それぞれ発信用の受取人（返信人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の送信先宛名11A及び発信人（発送人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の発信人宛名11Bが記載され、また、被封印物種類表示窓に対応する位置に対応する位置には被封印物種類表示11Cが記載されている。また、第2主面12には、同様に返信用の受取人（元発信人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等送信先宛名12A及び発信人（元返信人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の発信人宛名12Bが記載され、また、被封印物種類表示窓に対応する位置に対応する位置には被封印物種類表示12Cが記載されている。そして、第1主面11と第2主面12は、使用時には一点鎖線で折り曲げられ、表裏の関係にして使用される。

【0025】前記発信用及び返信用の受取人（郵送先）及び発信人（発送人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の送信先宛名11A、12A及び発信人宛名11B、12B、並びに被封印物種類表示11C、12Cの記載は、印刷あるいは筆記具で記載する。

【0026】次に、前記往復信兼用封筒1と往復信兼用封筒用ホルダー10との使用方法について説明する。

【0027】発信人は、往復信兼用封筒用ホルダー10に内容物を収納し、これを前記往復信兼用封筒1の前記第1の送受信宛名読取窓2、第2の送受信宛名読取窓3、及び被封印物種類表示窓4に対応する位置に、前記往復信兼用封筒用ホルダー10の第1主面11に記載されている発信用の受取人（郵送先）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の送信先宛名11A及び発信人（発送人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の発信人宛名11Bが合致するように挿入して封止し、郵送する。

【0028】返信人は、往復信兼用封筒用ホルダー10の内に返信内容物を収納し、これを前記往復信兼用封筒1前記第1の送受信宛名読取窓2、第2の送受信宛名読取窓3、及び被封印物種類表示窓4に対応する位置に、前記往復信兼用封筒用ホルダー10の第2主面12に記載されている返信用の受取人（郵送先）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の送信先宛名12A及び発信人（発送人）の住所、氏名、電話番号、ファクシミリ番号等の発信人宛名12Bが合致するように挿入して封止し、郵送する。

【0029】また、本発明の往復信兼用封筒1を用いれば、例えば、コンピュータにより、請求書の発行をする場合において、第1の送受信宛名読取窓2に対応する位置に受取人の郵便番号、住所、社名等を、第2の送受

5

信用読取窓 3 に対応する位置に発信人の郵便番号、住所、社名等を、被封印物種類表示窓 4 に対応する位置に通信文の種類をそれぞれプリントアウトするようにソフトウェアを組んでおくと、請求書発行と同時に郵送に必要な項目がプリントアウトされ、それを封筒 1 に挿入して封止し、切手を貼付するのみで発送できる。

【0030】これにより、往復信兼用封筒 1 及び往復信兼用封筒用ホルダー 10 を 2 回以上使用ができ、かつ、受信人（宛先人）の住所、氏名等及び発信人の住所、氏名等を封筒に印刷又は記入記載する手間を省略することが

【0031】以上、本発明を実施例を用いて具体的に説明したが、本発明は、前記実施例に限定されるものではなく、その要旨を逸脱しない範囲において種々変更し得ることはいうまでもない。

【0032】例えば、本発明においては、前記往復信兼用封筒用ホルダー 10 を、図 6 及び図 7 に示すような形状にしてもよいことは勿論である。

【0033】

【発明の効果】以上、説明したように、本発明によれば、往復信兼用封筒及び往復信兼用封筒用ホルダーを 2 回以上使用ができ、かつ、受取人（宛先人）の住所、氏名等及び発信人の住所、氏名等を封筒に印刷又は記入記

6

載する手間を省略することができる。また、封筒の内容物を容易に表示することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の一実施例の往復信兼用封筒の構成を示す表平面図、

【図 2】 図 1 の裏平面図、

【図 3】 図 1 の展開図、

【図 4】 本発明の一実施例の前記往復信兼用封筒に用いる往復信兼用封筒用ホルダーの主面の構成を示す展開図、

【図 5】 図 4 の往復信兼用封筒用ホルダーを使用状態に折り曲げた状態を示す図、

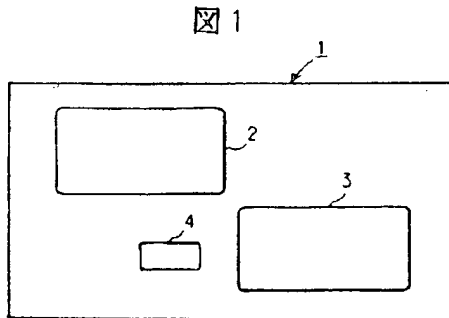
【図 6】 図 4 の往復信兼用封筒用ホルダーの変形例の構成を示す図、

【図 7】 図 4 の往復信兼用封筒用ホルダーの他の変形例の構成を示す図。

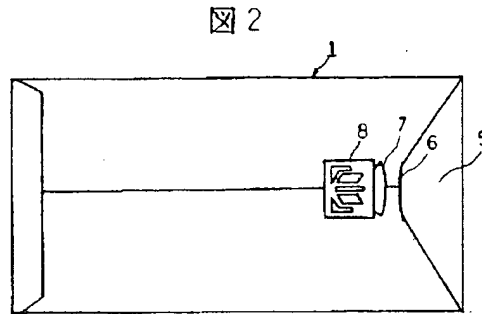
【符号の説明】

1…往復信兼用封筒、2…第 1 の送受信宛名読取窓、3…第 2 の送受信宛名読取窓、4…被封印物種類表示窓、5…封止部片、6、7…封止用切込み穴、10…往復信兼用封筒用ホルダー、11…第 1 主面、12…第 2 主面、11A、12A…送信先宛名、11B、12B…発信人宛名。

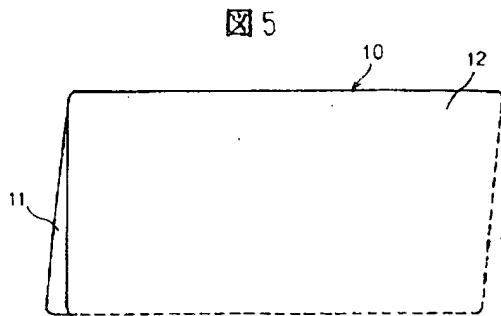
【図 1】



【図 2】

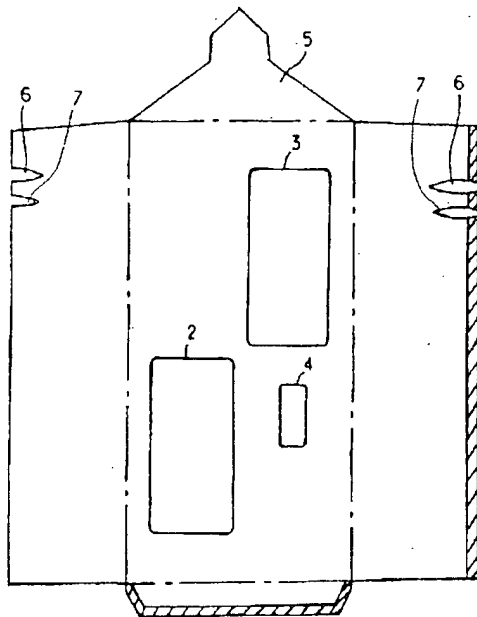


【図 5】



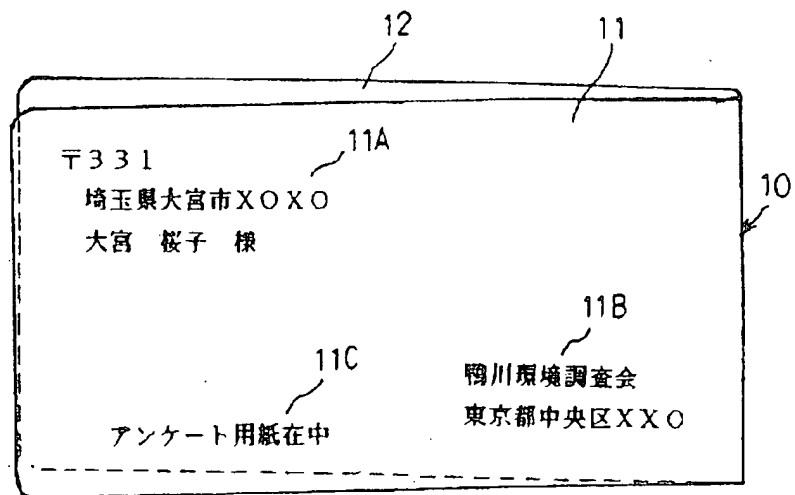
【図3】

図3

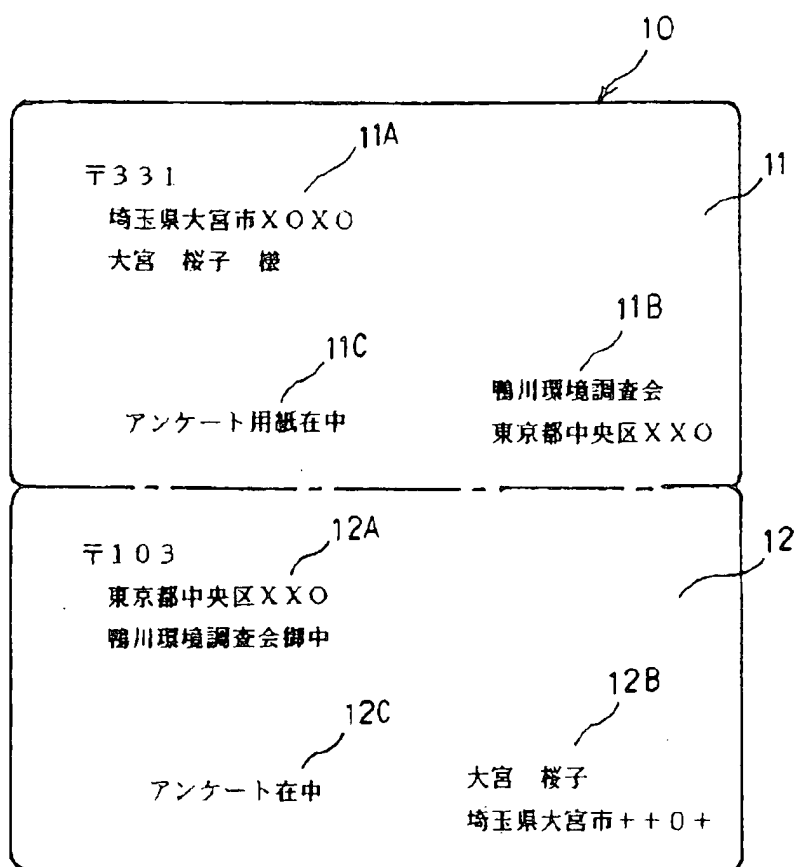


【図6】

図6



【図4】



【図7】

